

旅人塾 若者の旅心が未来をつくる！

いので、そのあたりでもお役に立てるお話ができればと思っています。

川嶋 私は元々一企業の技術屋ですが、企業の中で縁がありまして、ミクロネシア連邦の支援をするようになりました。しかし支援をするということは、やがて逆に自分ないしは日本自身が支援されているのだと気づくようになりました。世界的には団塊の世代になりますので、第二の人生を作る場にもしたいと思い、NPOを作り、現在活動しております。

●「旅」することの意味とは？

高濱 さて、早速本題に入りましょう。一般論として、「旅」ということが国際社会においてどういう意味合いを持つのかといった点を考えてみたいと思います。どうでしょうか？

木舟 私は、国際社会を旅するには、まず先入観を打ち破ることが必要だと思います。たとえば私は自転車でイランやパキスタンを走ったことがあるのですが、ご存知のとおり向こうは砂漠の国ですので、一番の問題は水です。自転車なので当然のことながらそんなにたくさん水は積みません。でも、次の町まで何時間も自転車走をこがなければいけないという状況の中で水を飲み干すわけにはいきません。飲みたい水も飲めないということがありました。

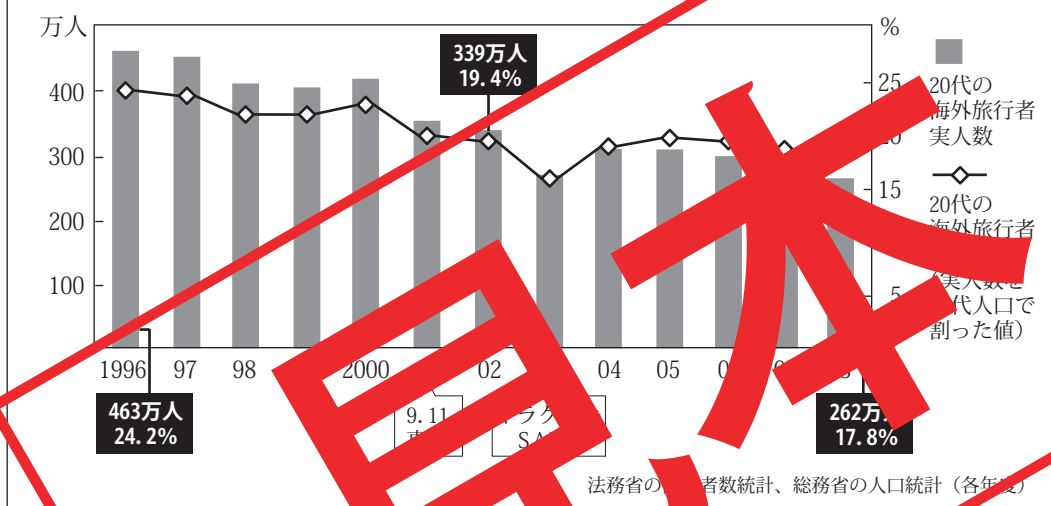
そんな経験をして、その後日本に帰ってきたときに、日本はなんて瑞々しい国なんだらうと、日本にいるときは考えもしなかったような、水のありがたさに気づかされました。そんな従来の考え方を打ち破る意味が旅にはあるのだらうと思

います。

高濱 その考えは今でも変わらないですか？

木舟 そうですね。やはり今でもときどき海外に行きますと、テレビで見たり本

●20代の海外旅行者数の変遷



で読んだりしたこと、現地を実際に見るのでは全然違うことを知らされます。私は35歳になりますが、10歳15歳年下の若い人たちに、ぜひそういう経験をものとしてほしくて、今日こういう機会を開いたわけでありませう。

高濱 では、次に義平さん、いかがでしょうか？

留学された動機などは？

義平 留学は高校のときの体験です。当時私は日本がけっこう嫌いで、留学という形で日本を飛び出したようなところがあつたのですが、逆に外から見て日本の良さを感じることになりました。

また、向こうの人たち私を日本人の代表として見るんですね。アメリカのシンシナティという街にいたのですが、ちよき学校へ行くと「プ」とかいう声が聞こえてくる異様な雰囲気に出会しました。のちに日本の友達が手紙で教えてくれたんですけど、日本の政治家が「アメリカ人は怠け者だ」という発言をしていたらしく、それで私に対する悪口につながらたのだと分かりました。

でもその頃バスケをやっていたんですが、そ

の友人たちがかばってくれているようなところもあつて、実は長い間そのニュースを知らなかったんです。人はその人の属性で見られることもあるけれども、個人としての交友関係や人間性が大事であつて、現在の私の「国際理解」に対する私の考え方につながっています。

田中 結論として海外経験とは何かというと、人間が大きくなる栄養素であり、外国から日本を見て、自分の国について色々なことを感じる機会を提供してくれているという意味があると思います。

たとえば昔エチオピアにいたときに革命がありましたが、そのとき日本の新聞に書かれていたことが、現地で起きていることと違うんですね。それ以来日本の新聞をあまり信用しなくなりましたし、読むとしても数紙を比べて読み、日本をより客観的に見るようになりました。日本の国民性、政治家の体質、マスメディアの見方、日本の進むべき方向といったことについて色々考えを巡らすようになった。そして、しいては世界を見るということにつながりました。

高濱 私も仕事の関係で、これまでに海外をあちこち行きましたが、そのたびに精神的な栄養が増えていくような充実感があつたことを思い出します。

川嶋 私は30のとき、アルジェリアが初めての海外でした。そのとき視野が大変に広がったということを実感しました。

旅というのは、私の世代では、ある種の悲壮感があつたように思います。どこに行くにしても大なり小なり危険があると。それに対して今、一般論的にいうと若者に生命力というか活力があまりない、世界の中に放り出されて生きていけないの